

所属	心理学研究科臨床心理学専攻	修了年度	2023 年度
氏名	伊野 日和	指導教員 (主査)	浅野 憲一専任講師

論文題目	<p align="center"><b>成人の同性愛カミングアウト後の交流意図と共感性との関連</b>  <b>——社会的伝染の懸念とセクシュアル・アイデンティティ不安に着目して——</b></p>
------	--

<p>本文概要</p> <p><b>【問題意識・研究目的】</b>近年, LGBT という言葉は社会の中で一般化しつつあるが, 性的マイノリティの当事者たちにとって, 未だ, 周囲の人にカミングアウトしやすい環境にはなっていない(電通, 2021)。石丸(2004)は, 同(両)性愛者は, 他者から受容されている感覚と自尊心との関連が異性愛者より強いと述べており, 重要な他者にカミングアウトした場合, 受容されることは当事者の精神的健康にとって重要だと推測される。カミングアウトに関して, 鈴木・池上(2020)の研究では, 同性の親友からカミングアウトされた場合, カミングアウト後には同性愛者一般に対しては肯定的になるものの, 親友とは交流を低下させる傾向があることが分かった。そこには, 社会的伝染の懸念(Buck et al., 2013)と, セクシュアル・アイデンティティ不安(以下 S・I 不安)(Pirlott et al., 2014)が影響しているとされる。これらに関連する要因として, 共感性が挙げられる。池田・一円(2017)は, 共感性の下位尺度のうち, 他者指向的の反応が高い者ほど, 各両性愛者に容認的であり, 視点取得が高い者ほど男性両性愛者に容認的で好意的であると述べた。本研究では, 成人の同性愛者が同性の異性愛者の友人へとカミングアウトをした後の交流意図がどのように変化するのか, カミングアウト後の交流意図にカミングアウトの条件, 社会的伝染の懸念, S・I 不安がどのように関係しているのかを明らかにすることを目的とする。</p> <p><b>【研究方法】</b>Macromill のオンラインリサーチシステムを使用し, 331 名から回答を得た。データクリーニングを実施し, 性的指向が異性と回答した 292 名を分析対象とした(平均年齢 30.32 歳, SD=5.40)。</p> <p><b>【結果・考察】</b>独立変数を性別とカミングアウト状況, 従属変数を交流意図得点とする二要因分散分析を行った結果, 男性より女性の方が交流意図得点が有意に高く, カミングアウト後にはどのカミングアウト状況でも交流意図得点が低くなることが明らかになった。性別とカミングアウト状況による交互作用がみられなかったことから, 男性・女性共にカミングアウトをした後には交流意図得点は低くなるが, カミングアウト場面によって, 交流意図得点に差がなかった。一人にのみカミングアウトをした場合, 社会的伝染の懸念と S・I 不安が高い者ほどカミングアウト後の交流意図得点が低くなることが明らかになった。複数人にカミングアウトをした場合, 社会的伝染の懸念と S・I 不安が高い者は, カミングアウト後の交流意図得点が低くなり, 社会的伝染の懸念が高いと S・I 不安が低くても交流意図得点が低くなることが明らかになった。多母集団同時分析の結果, 共感性が低い男性は, 交流意図得点に対して社会的伝染の懸念と S・I 不安の影響がみられなかった。共感性が高い男性は, 交流意図得点に対して S・I 不安の影響が強いことが明らかになった。男性は自身の性的指向が同性になることで, メディアで嘲笑的となる男性同性愛者となってしまうことに恐怖を感じ(郷古・広田, 2019), 同性愛者と距離を保つことで自己を保身しているのではないかと考える。共感性が低い女性は, 複数人にカミングアウトをした場合, 社会的伝染の懸念と S・I 不安が高いと交流意図得点が低くなることが明らかになった。共感性が高い女性は, 一人にのみカミングアウトをした場合における社会的伝染の懸念と, 複数人にカミングアウトをした場合における社会的伝染の懸念と S・I 不安が交流意図得点に影響していることが明らかになった。共感性は男性より女性の方が高く(石川, 2002), 友人関係が良好な者は共感性が高い(木村他, 2017)ことから, 女性の共感性が高い者は, 良好である友人関係を壊したくないという思いと, 同性愛者であると思われることによって友人関係における不利益が生じる可能性を考え, 社会的伝染の懸念が高まり交流意図得点を低くさせることが考えられる。</p>
--